

平成28年4月（改訂）にあたって

「UR T工法技術資料（施工編）」が平成20年3月に改訂（UR T協会版）され、データを収集・整理し現場状況を反映して発進立坑計画寸法を一部見直しをいたしました。

【見直し箇所】

第4章 発進・到達設備

4.2.1 発進立坑

図4-3 発進立坑平面寸法を見直し

A：反力壁補強厚を見直し

C：最大エレメント長+エレメントヘッド（刃口）を追記

D：接続作業のための余裕およそ0.8mを見直し

※次ページ以降参照願います。

今後も施工実績及び計画設計を参考とし、必要に応じ内容の見直し改訂を行うことにより、更なる発展につながるよう努力してまいります。

平成28年4月

UR T協会

会長 飯田 廣臣

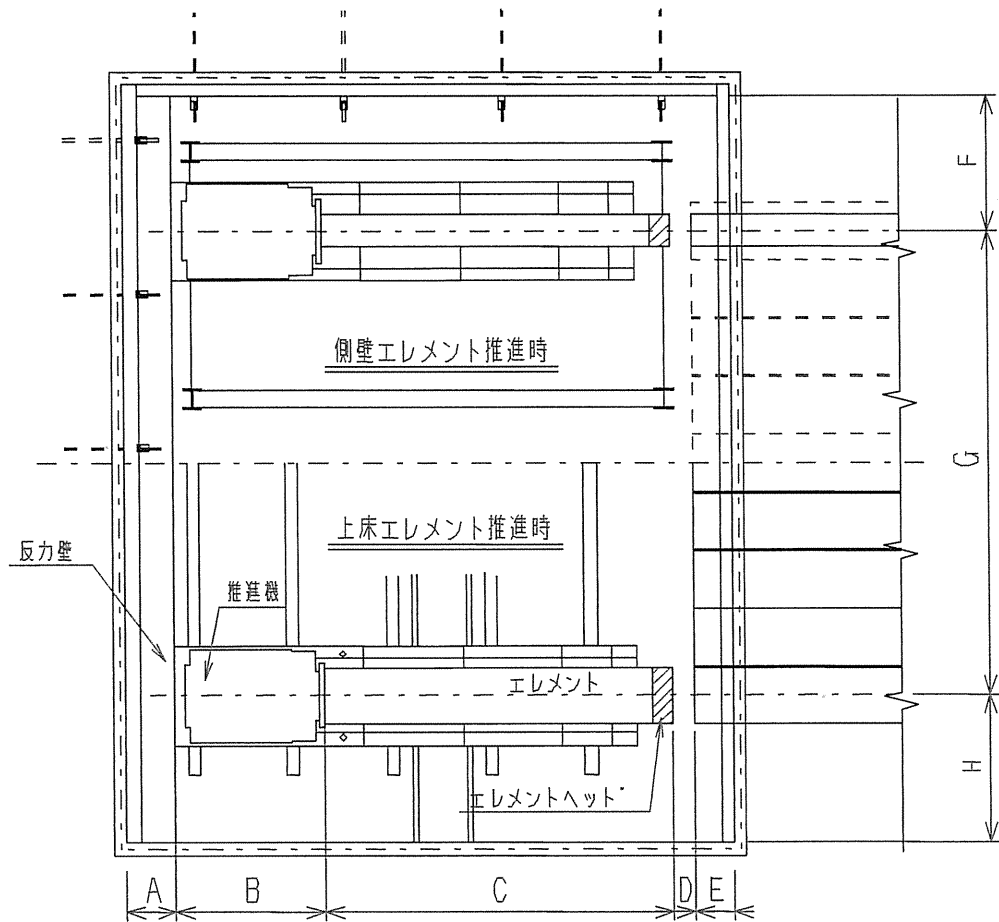


図4-3 発進立坑平面寸法

- A: 反力壁補強厚 (斜角がある場合は角度に応じて別途計画)
 推進機URT200型使用時、およそ 1.0m
 推進機URT600型使用時、およそ 1.4m
- B: 推進機長
 URT200型 2.5m~2.8m
 URT600型 3.7m
- C: 最大エレメント長+エレメントヘッド (人力推進の場合は押棒 1.5m を考慮)
- D: 接続作業のための余裕およそ (機械推進時 0.8m, 人力推進時 0.4m)
- E: エレメント突出長およそ 0.7m
- F: 昇降架台上推進における、エレメント中心と腹起内面間隔およそ 3.4m
- G: 両端エレメント中心間隔
- H: 直置推進におけるエレメント中心と腹起内面間隔およそ 3.0m

発進立坑平面寸法詳細図（例：本図は600型を示す）

() 寸法は200型を示す

